



薬剤師（薬局・病院）と 医療（医薬品）に係わる 情報と未来へのみちしるべ

（一社）医療データ活用基盤整備機構

折井孝男

はじめに

現在、薬学に限らず大学における研究の力が低下している話をよく聞くようになった。この原因は年功序列による縦型の研究体制が強いのではないかと考える。このことは大学に限らず、日本の社会全体の問題と考えて良いのかもしれない。このような問題を打破（従来からの文化を変える）するためには、若い人たちの頑張りが必要ではないかと考える。人口知能（Artificial Intelligence: AI）、ビッグデータ、リアルワールドデータ（Real World Data: RWD）などの利活用。さらに海外に出ることなどが必要ではないか。

医療における情報化（AI、RWD）

薬剤業務を含む医療分野における情報化はものすごい勢いで進化している。特に医療分野におけるAIの進歩には目を見張るものがある。医療におけるAIは「どこまで進歩したのか」「何を指すのか」「医療（医薬品）領域における利活用の方向性は」などということ日々考えさせられる。日本では将棋や囲碁の世界で、それこそ人が思いつかない指し手を考えるAIが現れた。薬剤師の世界でもAIが出てくる時代となっている。

医療分野におけるRWDとは、研究プロトコルに則って、収集されるデータではなく、診療における業務や個人の健康管理等によって生じるデータといえる。電子カルテの記録、お薬手帳、服薬指導記録などのデータがそれに該当する。その利活用により期待される成果としては、患者のQOLの向上、予防、効率的な医療、創薬、副作用検出、薬学的知識の創出など多岐に及ぶといわれている。

情報のながれ

例えば、大学等では学年ごとの「タテ」とい

う見方では、世の中での課題やロールモデルなどに出合う機会が少ないと考える。そこで、学年を横断した「ヨコ」という視点を持ち、一つの学問にはさまざまな学問が関わってくるのを感じる事が大切なことといえる。このように「タテ」の学問だけでなく「ヨコ」の視点を取り入れて学問を考えると、学生生活の中だけでなく、世の中のさまざまな問題に気づくようになる。このような視点をもつことにより、学生生活を通して「自分のやりたいこと」に気づくとともに、充実感を得られるのではないかとと思われる。頭の中で考えることはとても大切なことである。しかし、それに加えて「ヨコ」の視点を取り入れることにより、充実感だけでなく場合によっては達成感を学生生活において得ることができる。

学生生活ではさまざまな学問を学ぶが、すべてに対しても同じことがいえると思う。最初にも述べたが世の中はグローバル化している。インターネットの利活用によりさまざまなチャンスがあふれているといえる。可能であれば、国内だけに留まらず、海外の学問などに触れることも大切なことである。さらに、国際学会などに参加することにより自分の考え方を知らただけでなく、素晴らしい仲間に出

る機会が増える。日本という「タテ」だけでなく、国を超えた「ヨコ」へと展開できる。これらのことをよく考えて行動してほしいと思う。そして、多くの可能性を広げてほしいと考える。

グローバルな世界は医療の情報化以上に予想を超えるスピードで変化・進化している。グローバルな世界は「タテ」ではなく「ヨコ」の広がりが必要な世界といえる。未来を背負う世代が相互理解を深め、国を超えた多様性を有し、多職種とのつながりと信頼を持つことが大切である。大学等で学ぶ学問は、このような連携を図る大切な情報（学問）であるといえる。

おわりに

「普通は自分のしたいことを見つけた時、それに向かって頑張ります。『何をしたいのか』という目標に向かう情熱が大切です。気づいていなくても『何か』を行いたいということがあると思います。これからどのような薬剤師を目指せばよいのかということについては、多くの先生方が述べられています。そのことに加えて、薬局薬剤師・病院薬剤師を思う心、次の世代のための薬剤師を思う心が大切です」



学会講演スライド(中国)。情報化・国際化はますます進む。